

栃木県及び周辺の地震活動（令和 8 年 3 月）

【地震活動概況】

今期間に県内で観測した最大震度は 2 でした。期間内に県内で震度 1 以上を観測した地震は 6 回（前月 8 回）、震度 3 以上を観測した地震はありませんでした（前月 2 回）。

【栃木県及び周辺の地震活動】

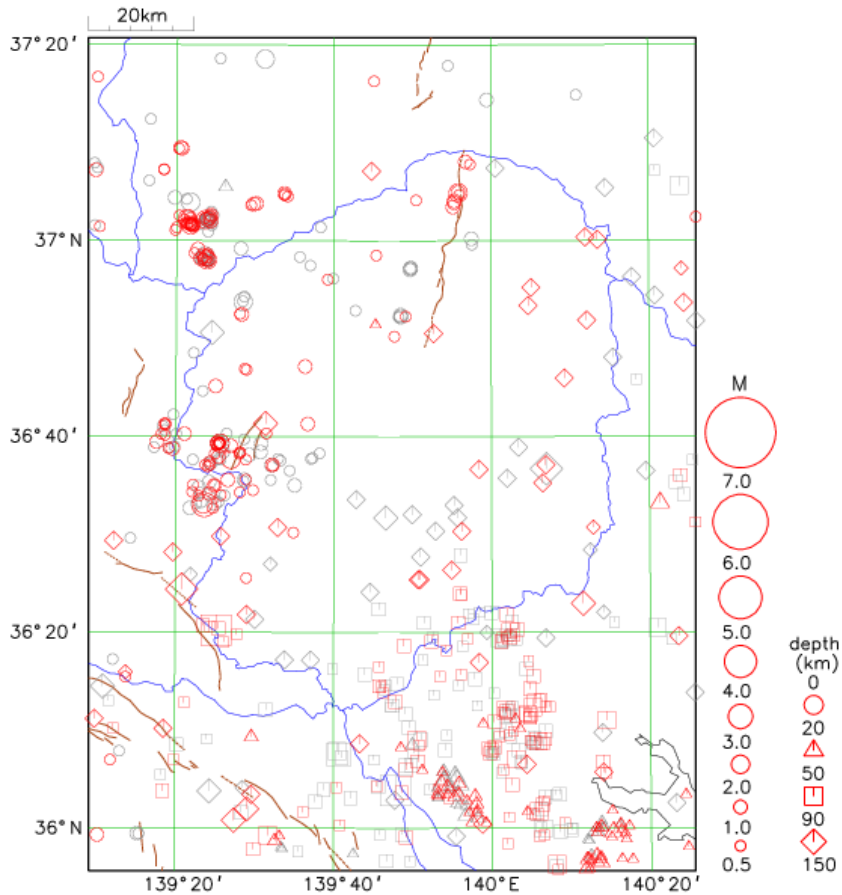


図 1 震央分布図（2026年2月1日～2026年3月31日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・Mはマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成した。

【3月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード*	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	3月2日	13時15分	群馬県南部	36° 33.0'	139° 23.6'	6	3.0	1	1
2	3月10日	15時28分	福島県沖	37° 24.0'	141° 03.3'	59	4.7	4	2
3	3月15日	14時06分	群馬県南部	36° 20.2'	139° 25.1'	83	4.5	3	2
4	3月15日	17時02分	群馬県南部	36° 33.1'	139° 23.5'	5	2.6	1	1
5	3月16日	20時37分	伊豆大島近海	34° 46.3'	139° 26.6'	122	4.3	2	1
6	3月26日	23時18分	三陸沖	39° 26.6'	143° 18.1'	15	6.7	4	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【防災メモ】地震が起きた時にどう身を守る

地震は時と場所を選ばず起こります。小さな地震なら気にすることも無いですが、命の危険があるような大きな地震が突然襲ってこないとも限りません。

皆さん地震が起きた時どのように行動したらよいのか考えたことがあるでしょうか。地震・津波から命を守るための基本的な知識や取るべき行動を学び、自分ならどうするのか考えておくことで、いざ自分が大きな地震に襲われた時に、その場で最もふさわしい行動を取って身を守ることが出来るのです。

気象庁では地震災害の学びの教材としてeラーニング教材をホームページで公開しました。

地震の現象の特徴や情報の使い方を理解し、ワークシートでは自宅の周辺のリスク、発災時の対応、さらに日ごろからの備えについて考えていきます。

個人学習はもちろん、授業や研修、地域活動でも幅広く活用いただけます。

eラーニング教材
地震・津波から命を守る

地震・津波から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。
詳しく考え、実践に役立ちます。人数や実施形式に決まりはありません。

好きな時間
ペースで学べる

一人でも
複数人でも

専門家や経験者が
いなくても大丈夫

家庭では

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- 無理に火を消そうとしない

事前の対策
家具固定化、家具・家電の固定、防火対策

避難行動
避難所・避難経路確認、地域の危険箇所把握

情報の入手
携帯電話・スマートフォン、携帯ラジオなど

コミュニケーション
家族の集合場所・安否確認方法（災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板）

避難生活
非常用持ち出し品と備蓄品の備え

「地震・津波から命を守る」自らの命は自らが守るeラーニング教材

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jma-svd-el/jishin/jishin-tsunami.html>

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260